

沖野忠雄と明治改修

目次

巻頭口絵 沖野忠雄と明治改修

1 沖野忠雄（大正5年）／2 沖野ふで（明治40年）／3 沖野忠雄（明治35年）／4 沖野忠雄誕生地（豊岡市記念碑）／5 沖野忠雄の碑（出石神社）／6 沖野忠雄の銅像（毛馬閘門）／7 沖野忠雄と妻ふでの墓／8 沖野とその盟友達／9 濃尾地震復旧工学士懇親会／10 内務省大阪土木出張所新年宴会／11 不動川砂防石堰堤前での記念写真／12 内務省東京土木出張所／13 大阪土木監督署／14 第二回文部留学生として渡欧直前の沖野忠雄／15 淀川・毛馬洗堰／16 荒川・岩淵水門／17 淀川・瀬田洗堰／18 利根川（江戸川）・関宿閘門／19 高梁川・酒津樋門／20 北上川・飯野川／21 信濃川・大河津可動堰／22 大河津分水路の工事／23-1、2 利根川水利一覧図／24 五畿内河川分流巨細全図／25 淀川改良計画／26-1、2 淀川流域水害図／27 デ・レイケ・吉野川検査報告書附図／28 幕末の常願寺川大水害／29 富士川改修計画図／30 エコールサントラル学位記／31 辞令：富士川流域3県内土木局直轄監督

第I編 河川行政・制度の進展

第1章 明治初頭の河川行政

1.1 概要

1.2 第1回地方官会議における堤防法案とその議論

第2章 明治前期の河川行政・河川事業

2.1 概要

2.2 オランダ技術者の来日と活躍

第3章 明治29年の河川法の成立

3.1 帝国議会での治水の議論

3.2 河川法の必要性

3.3 淀川改修運動

3.4 旧河川法の概要

3.5 河川法と木曾川改修工事

3.6 道路法案との比較

3.7 河川法の適用

第4章 明治30年の砂防法の成立

4.1 概要

4.2 明治初頭の砂防行政

4.3 明治10年代の砂防行政

4.4 デ・レイケと砂防事業

4.5 松方内務局とデ・レイケ

4.6 砂防法の成立

第5章 河川法による洪水防御事業（高水工事）の進展

5.1 明治32年（1899）度帝国議会での治水要求

5.2 利根川改修事業着手

5.3 庄川・九頭竜川

5.4 明治38年度（1905）・39年度帝国議会での治水要求

第6章 明治43年大水害と第1期治水長期計画

6.1 明治43年（1910）大水害

6.2 臨時治水調査会と第一次治水長期計画

6.3 帝国議会における議論

付録 明治44年（1911）2月3日の予算委員会での質疑応答

第Ⅱ編 河川事業－明治改修－の進展

第7章 明治初頭の大規模河川事業

- 7.1 信濃川大河津分水工事
- 7.2 霞ヶ浦居切堀割工事
- 7.3 まとめ

第8章 富士川改修

- 8.1 富士川の自然特性
- 8.2 河身改修事業
- 8.3 沖野忠雄の計画に基づく改修事業
- 8.4 第1次治水計画に基づく改修

第9章 常願寺川改修

- 9.1 はじめに
- 9.2 富山県の成立
- 9.3 治水に対する国庫補助の要望
- 9.4 明治24年(1891)の大水害と常願寺川改修
- 9.5 常願寺川改修計画の特徴
- 9.6 ムルデルの実施検査とデ・レイケ計画
- 9.7 デ・レイケが常願寺川に評して言ったという「これは川ではない滝である」について

第10章 木曾川改修

- 10.1 木曾三川の宝暦治水
- 10.2 デ・レイケによる木曾川改修計画
- 10.3 木曾川改修工事の背景をなす鉄道建設
- 10.4 木曾川改修工事
- 10.5 木曾川と一川改修

第11章 淀川改修

- 11.1 淀川改修の課題
- 11.2 計画対象流量と遊水効果
- 11.3 地域間対立
- 11.4 三川合流後下流部・大阪府下の改修計画
- 11.5 改良工事
- 11.6 府県議会における質疑応答
- 11.7 大塚切れ
- 11.8 付記

第12章 筑後川改修

- 12.1 筑後川の治水前史
- 12.2 筑後川河身修築事業
- 12.3 筑後川明治改修事業の実施

第13章 利根川近代改修

- 13.1 近代初頭の利根川の概要
- 13.2 近代利根川改修の課題
- 13.3 近代改修事業
- 13.4 利根川上流部・中条堤をめぐる河川処理
- 13.5 利根川中流部の河川処理
- 13.6 江戸川改修計画
- 13.7 利根川・小貝川の合流

第14章 渡良瀬川近代改修

- 14.1 近代初頭の渡良瀬川の概況
- 14.2 足尾鉍毒事件
- 14.3 第二次鉍毒調査会による渡良瀬川改修計画の議論

- 14.4 谷中村と思川改修
- 14.5 思川改修計画の挫折
- 14.6 渡良瀬川中流部の治水の動向－栃木県と群馬県の地域対立
- 14.7 鉱毒被害民による東京押出し
- 14.8 渡良瀬川改修事業
- 第15章 吉野川改修
 - 15.1 近世における新吉野川の開削と第十堰建設、第十堰上流右岸の遊水地
 - 15.2 明治初期に開始された第十堰改築と吉野川砂防工事・吉野川初期改修工事
 - 15.3 吉野川明治第1期改修
- 第16章 信濃川改修
 - 16.1 近世から明治初期の砂丘開削工事
 - 16.2 信濃川河身修築事業と大河津分水路再着工の動き
 - 16.3 信濃川改修工事－大河津分水路の着工
 - 16.4 大河津分水路施工途上の事故
 - 16.5 大河津分水路の施工に伴う水利再編と関連工事
- 第17章 庄川改修
 - 17.1 庄川河口港－伏木港
 - 17.2 扇状地河川－庄川
 - 17.3 デ・レイケの調査報告と庄川改修工事の着工
- 第18章 九頭竜川改修
 - 18.1 藩政時代における九頭竜川の治水策
 - 18.2 河口港－三国港の改築と九頭竜川
 - 18.3 九頭竜川改修工事の実施
- 第19章 遠賀川改修
 - 19.1 藩政時代からの明治中期に至る遠賀川流域の開発
 - 19.2 明治38年水害と遠賀川改修工事
- 第20章 高梁川改修
 - 20.1 高梁川改修の主眼－分派川の整理
 - 20.2 近世から明治初期における高梁川の治水問題
 - 20.3 高梁川改修計画における河道線形の課題
 - 20.4 高梁川改修工事着工後の計画の大転換
 - 20.5 高梁川改修による水利再編＝合口
- 第21章 北上川・荒川改修
 - 21.1 北上川改修
 - 21.2 荒川改修
- 第22章 富士川砂防
 - 22.1 富士川上流域の自然条件と社会条件
 - 22.2 山梨県による砂防工事
 - 22.3 富士川における内務省直轄砂防事業
 - 22.4 第1期治水計画に基づく直轄砂防事業
 - 22.5 砂防工法
- 第23章 その他の河川－大井川・天竜川・阿賀野川・阿武隈川・神通川
 - 23.1 大井川河身修築事業
 - 23.2 天竜川河身修築事業
 - 23.3 阿賀野川河身修築事業
 - 23.4 阿武隈川河身修築事業
 - 23.5 神通川改修事業

第Ⅲ編 明治改修の評価

第24章 明治改修の計画論的評価

- 24.1 近代科学と明治改修／沖野忠雄旧蔵理工学書の分析
- 24.2 放水路整備と明治改修
- 24.3 霞堤と明治改修
- 24.4 堤防と明治改修
- 24.5 合口と明治改修
- 24.6 河口港と明治改修

第25章 明治改修の技術論的評価

- 25.1 大型河川構造物と明治改修
- 25.2 施工技術と明治改修

第26章 明治改修と国土の近代化

第Ⅳ編 沖野忠雄の経歴と河川との係わり

第27章 沖野忠雄の経歴

- 27.1 沖野忠雄の生家そして少年時代における円山川の被災経験
- 27.2 青年時代（大学南校）
- 27.3 沖野忠雄のフランス留学…山田寅吉・古市公威との比較で
- 27.4 東京職工学校
- 27.5 内務省時代
- 27.6 円山川改修と沖野忠雄
- 27.7 天津派遣
- 27.8 内務省退官後

第28章 沖野忠雄と河川改修

- 28.1 沖野忠雄と河川技術（松浦茂樹）
- 28.2 沖野忠雄と山梨県（望月誠一）
- 28.3 沖野忠雄の治水思想－東洋と西洋のはざまで－（神吉和夫）
- 28.4 土木工事の原点に求められた指導者＝沖野忠雄（岩屋隆夫）

沖野忠雄と明治改修 年表

おわりに

索引

執筆者紹介